



1 函南西瓜を栽培する広大な畑 2 栽培は工程すべてを手作業で行っています 3 露地栽培だけでなくハウスを使用している栽培も行っています

函南西瓜は通称〇平まるひらと呼ばれることから、平井地区の畑で育てられているスイカのことだと思っ
ていませんか。実は函南西瓜は平井地区だけではなく、畑毛・大竹地区でも栽培されており、1人あたりの栽培面積は約1haほどにもなります。生産者は主に家族経営で、町の各所の広大な畑で函南西瓜を栽培してブランドを守り続けています。

意外と広い 西瓜の産地



函南西瓜

函南に住む皆さんは暑くなるとスイカを食べたくありませんか？
町民だけではなく町内外で親しまれてきた函南西瓜には
おいしいスイカを届けようとする生産者のこだわりが詰まっています。
函南の初夏の特産品「函南西瓜」について取材をしました。

問合せ／産業振興課 (979-8113)



5月~7月 出荷



トラックにスイカを積み込み、生産者が丁寧に荷下ろしします。昔ながらの伝統的な打音検査で検査を通ったスイカのみが「函南西瓜」として出荷されます。

5月~ 摘果、ツル引き



1株に1個の実にし、果実を肥大させ、味を凝縮させます。ツルが伸びてくるので、ツルを引いて誘引しながら着果位置などをコントロールしていきます。

西瓜が育つまで



1月 苗づくり



1本1本の苗に対して水分量や温度管理に細心の注意を払い、丹精込めて栽培します。手作業で接ぎ木を行い、函南西瓜の土台を作り育てます。

2月 定植



苗を畑に植える作業で苗の定植位置や向きに気を付けながら1本ずつ丁寧に植え付けを行います。

4月~ 交配



美味しいスイカにするために、自然交配に頼らず、1本ずつ人工交配を行います。天候との戦いでタイミングが非常に難しく、毎年、苦勞が絶えない作業です。

4月~5月 着果



交配後は1玉ずつ着果したか確認作業を行い、確認できたら収穫までの日数を把握しています。

地域が認めたブランドカ



通称〇平まるひら
このマークが目印です!

函南西瓜は町内の生産者が町の中山間地を中心に栽培を行っています。出荷期間は、5月中旬から7月末までの期間で約2万ケース（4万玉）が出荷されます。
地元が誇る農産物として函南西瓜（通称〇平まるひら）は平成28年に「函南ブランド」に認定され、平成29年には「静岡食セレクション」に認定されました。
生産者が食べごろを見極めて収穫、出荷されたスイカは、全て検査員が機械に頼らず1玉ずつ打音検査を行い、選果選別された後に店頭で並んでいきます。生産者のこだわりがたくさん詰まっている地元ブランドの函南西瓜を紹介します。

地元が誇る特産品